



令和5年度 「誰もが活躍できる地域づくり講座」 アンケート集計



■講師：一般社団法人パーソナルサービス支援機構

代表理事 大倉 一真 氏

■11月24日(金)「子ども支援講座」参加者 20名

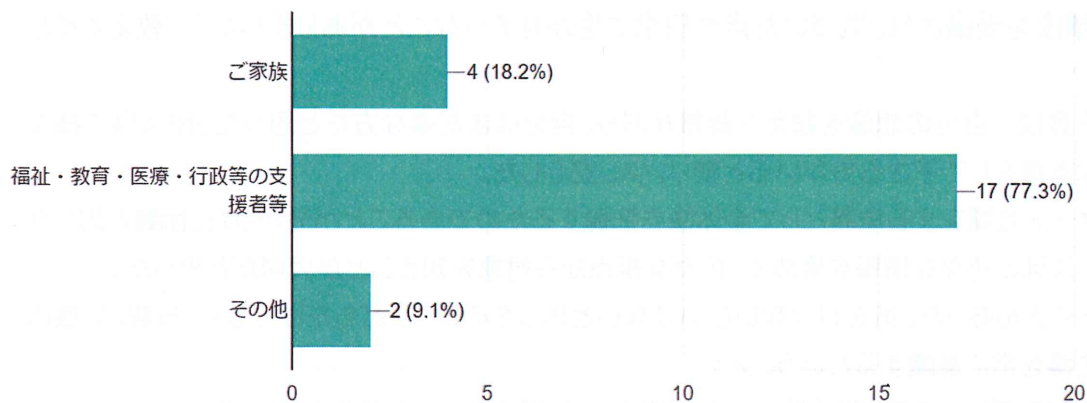
■11月25日(土)「家族教室」参加者 15名

■共催：屋久島町・屋久島保健所・屋久島町自立支援協議会

後援：屋久島町教育委員会

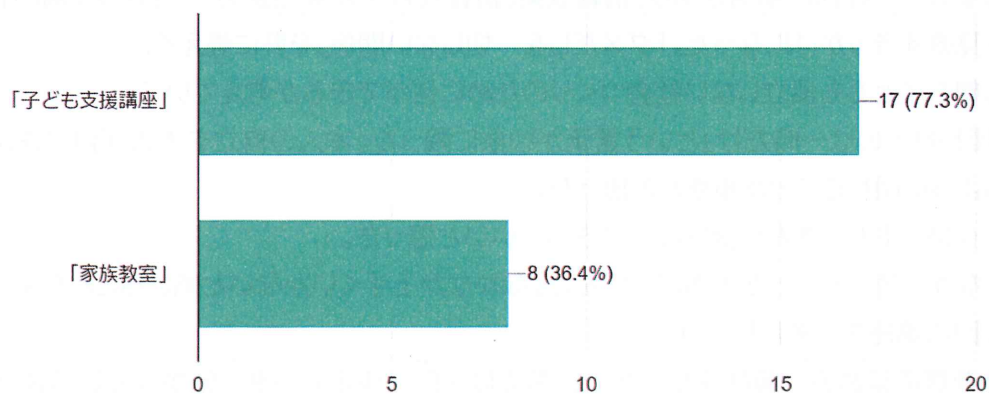
1. お立場について

22件の回答



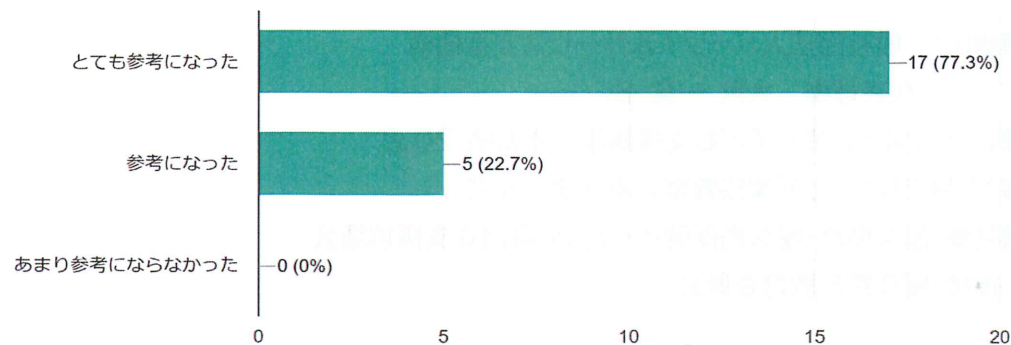
2. 参加された講座について

22件の回答



3. 今回の講座は参考になりましたか。

22 件の回答



①「子ども支援講座」

4. 本講座を受講され、気づいた点や日常で生かせそうなことがありましたら、教えてください。

- 不登校に自分の想像を超えた背景があり、自分はまだ楽な方だと思った。屋久島に様々な支援をして下さる方がいると知り、少し安心した。
- ケース会議をする意義として全体像を把握するためであることが分かった。困難と思うケースほど色々な情報を集めて、色々な視点から対象を知ることが大切だと思った。
- たくさんあった。気を付けないといけないと思ったのは、子どもだけでなく、母親、家族の主導を常に意識するということ。
- 今回受講して再度、関係性(人)を大切にし、居場所を作って行きたいと思う。
- つながり続けることの大切さと居場所の大切さを実践していきたい。
- 参加された人同士を結び付けられる自己紹介時間。支援する体験をさせてもらえることがステキと思った。
- これからの国の支援の動きを教えてもらえてよかった。一つの問題家庭(支援を必要とする家庭)には背景、事情があり、情報収集、情報共有が大事と感じた。自分の立場の有り方を見直すきっかけになった。「ダメだしを一切しない関係」を肝に備える。
- 母親も子どもも孤立しない社会づくりのために何ができるか考えていく。
- 「関われるのは一時だけ」という言葉が印象に残った。本人の自立を本人が自己決定できるように関わるのが重要だと思った。
- 屋久島にもたくさんの受け皿ができるといいと思った。
- つながり続けることが大事だと学んだ。なかなか上手くいかないと感じることも多いため今回の講座を参考にしたい。
- 事業費の集め方、興味深かった。日常では「自己決定」の事、分かっているようで実はつい自分の考えを押し付けているようなことになっていないか？今後の支援で意識していきたいと再認識でした。

- 教育関係の方から、学校の先生が1人もいなかったのが残念だなあと個人的には感じた。うちの子供は学校の先生とうまくいかなかったので、先生の理解があれば、また違ってたのかなあとと思うところもある。学校以外の居場所は本当に大事だと感じる。幸い自分たちは、教育支援センターの先生や周囲の大人たちに助けてもらい前を向いて現在進行形でいけている。なので、周囲の理解者との出会いは大きいと感じる。自分の子育ては、失敗も多々今もあるが、失敗を次にいかせるように。その失敗を今から悩むお母さん達の助けになればなあとと思う。微力ではあるが、この講座で得たものをいかしていきたい。
- 想いを持って一步一步進んでいくことの先にあるものを見せていただいた。

5.今後受けた研修や講座がありましたら教えてください。

- 何でも知りたい
- 資源を結び付けられる講座やどんな資源があったらいいかと語り合える機会。
- 支援者や当事者の家族は、本人への関わり方や本人がどんな悩みや苦しみを抱えているのか具体的な事例ふりかえり等を通じて学びたかったのではないと思う。
- 『みんなの学校』映画をみてみたい。
- 学校にいけない子どもたちの対応の屋久島バージョンを学びたい。屋久島外でのサポートについては、学びにはなるが、それをいかせるかと言うと難しいところもあり。屋久島で各分野で頑張ってる人達が横で繋がればサポートの幅が広がるのかなあと考えた。個人情報で難しいかも知れないが、屋久島での不登校の現状、対応を知りたい。
- 参加型、対話型でそれぞれの声を聞ける WS

6.自由意見・感想(ぜひ地域で気になっていることも教えてください。)

- お忙しい中来島してくださり、ありがとうございました。行政には少し手が出しにくい手が届きにくい支援をして下さる施設、支援者がいるととても心強いと感じた。
- また折を見て相談させてもらうかもしれません。ありがとうございました。
- とても良い話が聞けて良かった。ありがとうございました。
- 居場所づくりは地域づくりだなと思った。
- 屋久島での支援が必要家庭の数等が知りたい。
- 島内にも緊急シェルターの必要性を感じる。ひきこもり・不登校の子どもたちや人が前向きに生きていけるように森林浴のプログラムを作っていきたい。
- 人であれば包括的に支援できるといった事業があれば良いな。離島では何かの条件で括られてしまうと支援することに困難さを感じる。
- 屋久島で唯一のフリースクールを運営している。送迎、ごはん、スタッフ費など課題はた

くさんある。いろんなヒントをいただきました。ありがとうございました。

- 学校で、道徳や命の授業、職業体験など力を入れてしてもらっているが、そもそも学校に行けてない子達は、それさえ参加できずなのが残念です。選択肢としてオンラインの活用、別室での参加、家からの参加、支援センターからの参加など選択肢が広がればなぁと感じる。先生が不足してる現実もわかる。だから、学校に来ないと学べない。不登校の子には手が回らないといわれるとそれ以上学校に望めない。親が挫けそうになる。あと、学級通信を頂くのはありがたいことだが。学校できてる子ども達は、こんなに頑張ってるという内容なので、行けてなくて悩んでるのに追い打ちかけると感じるのは自分の心が弱ってるのかなぁと思いますが、学級通信のいる、要らないを本人又は親にも聞いて欲しいと感じていた。言う機会がないので、ここに記載させてもらった。大倉先生の事業が屋久島で出来たら最高だなぁと心から思う。

② 「家族教室」

4. 本講座を受講され、気づいた点や日常で生かせそうなことがありましたら、教えてください。

- 今まで自分の気持ちを抑えて本音で話すことを恐れていたが、親子に遠慮はいらないと知って安心した。子供の深層心理をもう少し詳しく知りたい。
- 長期のルーティンを設定しておく。本音で話したい、聞きたい内容を予告しておく。という手法が実用的・具体的でためになると思った。
- 居場所の確保から始めないといけない。親と話す機会があって良かったという子どものエピソードがきけてよかった。
- 自分の子育てをふり返りながら聞いた。大倉さんのサポートは温かく、細かい気配りができていて素晴らしいなと思った。自分たち家族は一生懸命に子育てしてきたが、今のような接し方で大丈夫だなと改めて確認できた。もし、大きく悩む時は相談させてもらいたいと思う。
- 居場所作り、是非やっていきたいと思った。
- 子どもに話をする時に、話をしたいという予告をするというところ、言いすぎてしまったと思ったら謝るというところが具体的な参考になった。また、ストレスがいっぱいいっぱいになりそうだったら、信頼できる人に伝えて対処するということを子どものうちに学んでおく事は大事な事だなと気付かされた。
- 親だからこうしなければいけない、〇歳だからこうしなければいけない、とつい考えてそれを押し付けようとしてしまうが、ひとりひとりのペースがあること、他に選択肢はいくらでもあるということを、あらためて気付いた。

5.今後受けた研修や講座がありましたら教えてください。

- アウトリーチ支援の実践についての研修
- イベントづくりのヒントになる講座
- かたつむりの会に大倉先生をお迎えして、お話を聞いたりしたい。
- 支援者として家族や地域の巻き込み方、事例などもう少し詳しく知りたいと本日の研修で感じた。

6.自由意見・感想(ぜひ地域で気になっていることも教えて下さい。)

- 障害者の(就労)支援は法的にもサービスも充実しているが、ひきこもりやグレーゾーンの方々へのサービスはほとんどない気がして、法の間にあるのかなと思った。
- 地域でフリースクールが運営されていて、なんとなくいいイメージで存在していないように感じている。もう少し、イメージ以外の部分を見てみたいと思った。
- 屋久島では色々な体験に連れ出すことが難しかったので、うらやましいなと思った。毎日意識して家族の表情を見るようにしないといけないと思った。
- 昨日に引き続きの受講でしたが話が聞きやすく、あっという間に時間が経った。関わった子どもが不登校になり、ずっとフリースクールなどの居場所の必要性を感じていた。将来的にフリースクールや居場所を提供する場を作って行きたいと改めて強く思った。良い話をありがとうございます。
- 居場所や福祉サービスが少ないこと



ご参加・ご協力ありがとうございました。